

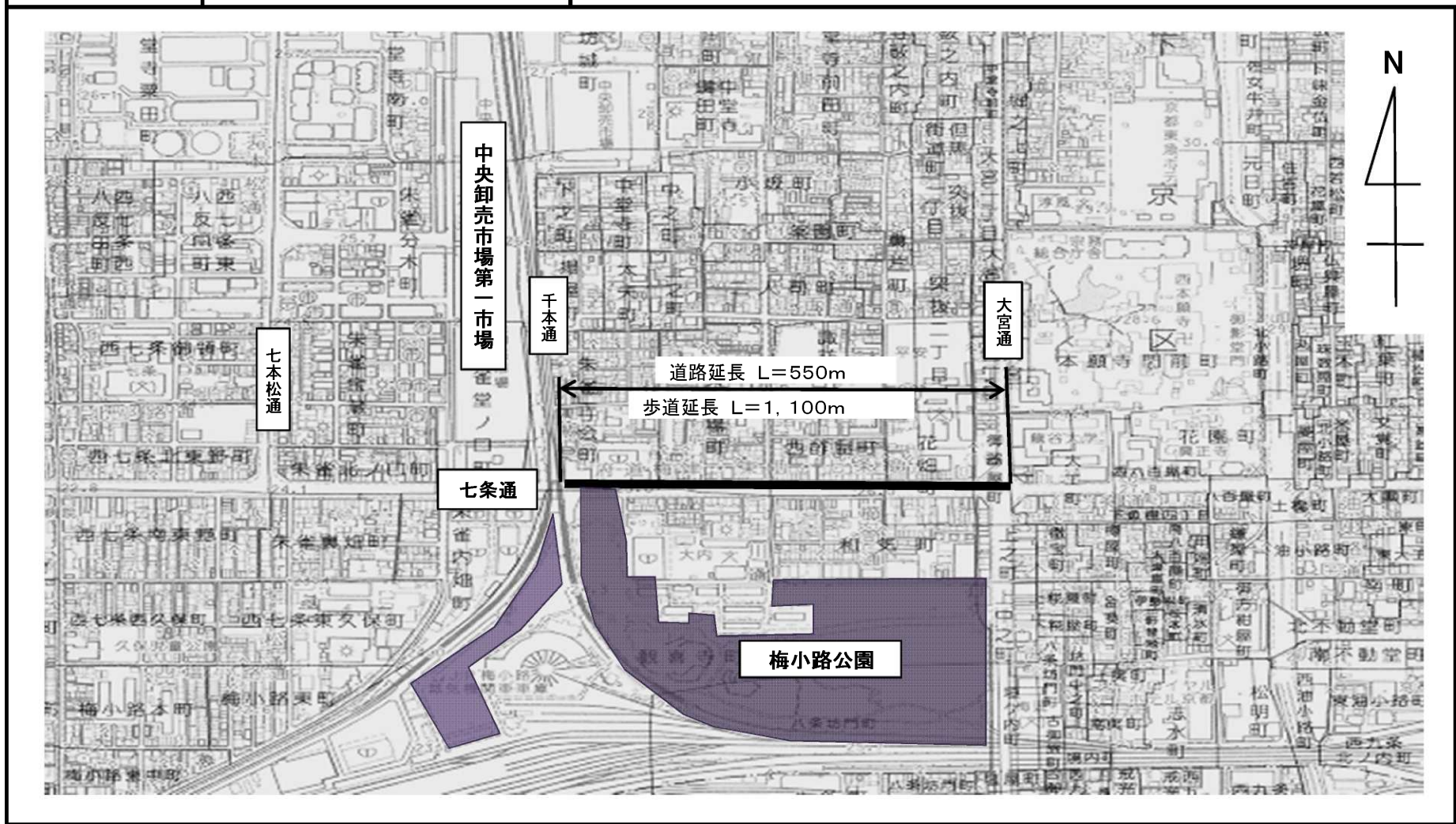
平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	梅小路公園周辺整備事業		
予算額	139,400千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	建設企画課(222-3551), 道路環境整備課(222-3570)		
<p>〔事業実施に至る経過・背景など〕 梅小路公園周辺では、平成24年3月に「京都水族館」が開業し、その後も「すし市場」、「京の食文化ミュージアム・あじわい館」が開館するなど、賑わいを増している。 今後も、梅小路公園の拡張再整備や鉄道博物館の開設が予定されていることから、歩行者や自転車の通行環境を整備し、市民・観光客が、梅小路公園周辺エリアの施設を巡りやすくすることで、地域の活性化を図る。</p> <p>〔事業概要〕 平成25年度は、七条通（大宮通～JR高架下）において、車道の路肩部分を狭め、既存の自転車歩行者道を拡幅するなどの歩道整備を行う。</p>			
<p>〔参考（他都市の状況・事業効果など）〕</p>			

路線名 一般府道 梅津東山七条線

箇所図



平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	四条通歩道拡幅事業		
予算額	429,000千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	道路環境整備課(222-3570)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 本市では、京都の魅力と活力が凝縮した歴史的都心地区（四条通，河原町通，御池通，烏丸通で囲まれた地区）を中心とする「まちなか」において、四条通の歩道拡幅と公共交通優先化をはじめとする，安心・安全で快適な歩行空間の確保や賑わいの創出など，人と公共交通優先の「歩いて楽しいまちづくり」を推進している。</p> <p>[事業概要] 四条通（四条大橋東詰～烏丸通）において，車道を4車線から2車線に減らし歩道を拡幅するとともに，バスが走りやすくなる歩道形態にするなど，公共交通の優先化を行い，安心・安全な歩行空間の確保と，路線バスの利便性向上を図る。 <u>平成25年度は，車道を2車線化し，歩道拡幅後に通行の妨げとなることが見込まれる電線類地中化の地上機器等を，拡幅後の歩道内の車道側へ移設する（歩道整備は平成26年度に実施予定）。</u></p>			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

路線名	主要府道 嵐山祇園線 (四条通)	箇所図
-----	------------------	-----



烏丸通

河原町通



歩道拡幅工事
道路延長L=1120m

四条通

四条大橋

平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	「歩いて楽しいまちなかゾーン(仮称)」の推進		
予算額	36,400千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	調整管理課(222-3568)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 本市では、「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し、脱「クルマ中心」社会を目指すため、平成22年1月に「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定した。 この戦略において、都心の細街路については、安全な歩行空間を可能な限り広げて、地域の生活者や来訪者が安心して回遊することのできる道路とし、自動車は歩行者等に配慮してゆっくり走ることを基本的な考えとしている。 <u>歩道整備が困難な都心の細街路において、自動車走行の速度を低減させ、安全でゆとりのある歩行空間を創出するとともに、通行空間の分離による自転車通行空間の整備や歩行者の円滑な通行を確保するため、幹線道路に囲まれた地域を「歩いて楽しいまちなかゾーン(仮称)」と設定し、都市計画局、交通管理者等と連携して、ゾーン対策を実施している。</u></p> <p>[事業概要] 人と公共交通優先の「歩いて楽しいまちづくり」を推進している「歴史的都心地区」(四条通、河原町通、御池通及び烏丸通で囲まれた地区)を対象として、先導的に対策を実施する。 <u>平成25年度は、区画線の引き直しやカラーライン等による車線幅員の狭小化(路側帯の拡幅)を行うとともに、自転車通行部分の明示等を行う。</u></p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p>			

○カラーラインの施工例



平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	LED 道路照明灯の設置																		
予算額	86,000千円	新規・継続の別	新規																
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠																
担当課	調整管理課 (222-3568)																		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 道路照明灯は、市民の皆様が安全で円滑に道路を通行するために必要不可欠なものであり、<u>現在、京都市では蛍光灯類約 67,000 灯、水銀灯類約 15,000 灯など膨大な数の道路照明灯を管理している。</u></p> <p>環境モデル都市である京都市では、京都議定書誕生の地として地球環境にやさしい取組を推進しており、その一環として、平成20年度から主に幹線道路で用いられている水銀灯を、老朽化による更新等の際、エネルギー効率が高く消費電力が少ない「セラミックメタルハライドランプ」に取り替えてきた。</p> <p>[事業概要] LED 照明灯については、メーカーによる開発が進んでおり、蛍光灯と比較して、CO2 排出量を約3分の1に減少させ、寿命も約7倍に延ばすことが可能となっている。</p> <p>京都市では、平成24年度から、生活道路等に道路照明灯を新設する際に LED 照明灯を設置しているが、更なる節電・長寿命化・低炭素化を推進するため、<u>平成25年度からは、既存の道路照明灯（蛍光灯）について、7年間で、順次 LED 照明灯に転換していく。</u></p> <p>【参考】 蛍光灯と某メーカーの LED 照明灯との比較（20Wタイプ 1灯あたり）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>寿命</th> <th>1時間当たりの消費電力 (Wh)</th> <th>年間CO₂排出量 (kg-CO₂)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蛍光灯(20W)</td> <td>約2.1年</td> <td>23.5</td> <td>27.6</td> </tr> <tr> <td>LED(8.5W)</td> <td>約15年</td> <td>8.5</td> <td>10.0</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>約7倍</td> <td>約1/3</td> <td>約1/3</td> </tr> </tbody> </table>				種類	寿命	1時間当たりの消費電力 (Wh)	年間CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	蛍光灯(20W)	約2.1年	23.5	27.6	LED(8.5W)	約15年	8.5	10.0	比較	約7倍	約1/3	約1/3
種類	寿命	1時間当たりの消費電力 (Wh)	年間CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)																
蛍光灯(20W)	約2.1年	23.5	27.6																
LED(8.5W)	約15年	8.5	10.0																
比較	約7倍	約1/3	約1/3																
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]																			

平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	いのちを守る都市基盤防災・減災対策プロジェクト		
予 算 額	2,160,146 千円 いのちを守る 橋りょう健全化プログラム 1,647,246 千円 災害防除 512,900 千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠 局配分枠
担 当 課	調整管理課 (222-3568)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 東日本大震災や近年多発する局地的集中豪雨等を踏まえ、災害に強いまちづくりに向けた防災対策を充実するため、以下の事業を実施する。</p> <p>[事業概要]</p> <p>(1) いのちを守る橋りょう健全化プログラムの推進 災害時における都市機能の確保を図るとともに、平常時においても市民生活を守るため、プログラムに基づいた耐震補強をはじめとした適切な維持修繕を計画的に進める。 実施箇所 耐震補強 18橋（九条跨線橋、京北橋など） 老朽化修繕 16橋（二条大橋、上鳥羽橋など）</p> <p>(2) 災害防除（道路に面する斜面等の防災対策） 災害発生時の緊急輸送を円滑かつ確実に行うため、緊急輸送道路に面する斜面等において、落石、斜面崩壊等の災害を未然に防止する工事を効率的、効果的に進める。 ・災害防除 19箇所（一般国道162号など）</p>			
<p>[参 考（他都市の状況・事業効果など）]</p> <p>(1) いのちを守る橋りょう健全化プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「重要路線」上の橋りょう（15m以上）15橋のうち14橋、及び新幹線または緊急輸送道路をまたぐ橋りょう3橋の耐震補強を5年以内に完了させる。 ・特に老朽化修繕を急ぐ必要がある橋りょう37橋の修繕に着手し、工程的に6年以上かかる3橋以外の34橋について、5年以内に老朽化修繕を完了させる。 <p>(2) 災害防除（道路に面する斜面等の防災対策） 緊急輸送道路等、路線の重要性及び緊急性を考慮して重点化を図りながら、対策工事を進め、災害を未然に防止する。</p>			

平成25年度 京都市予算案 事業概要

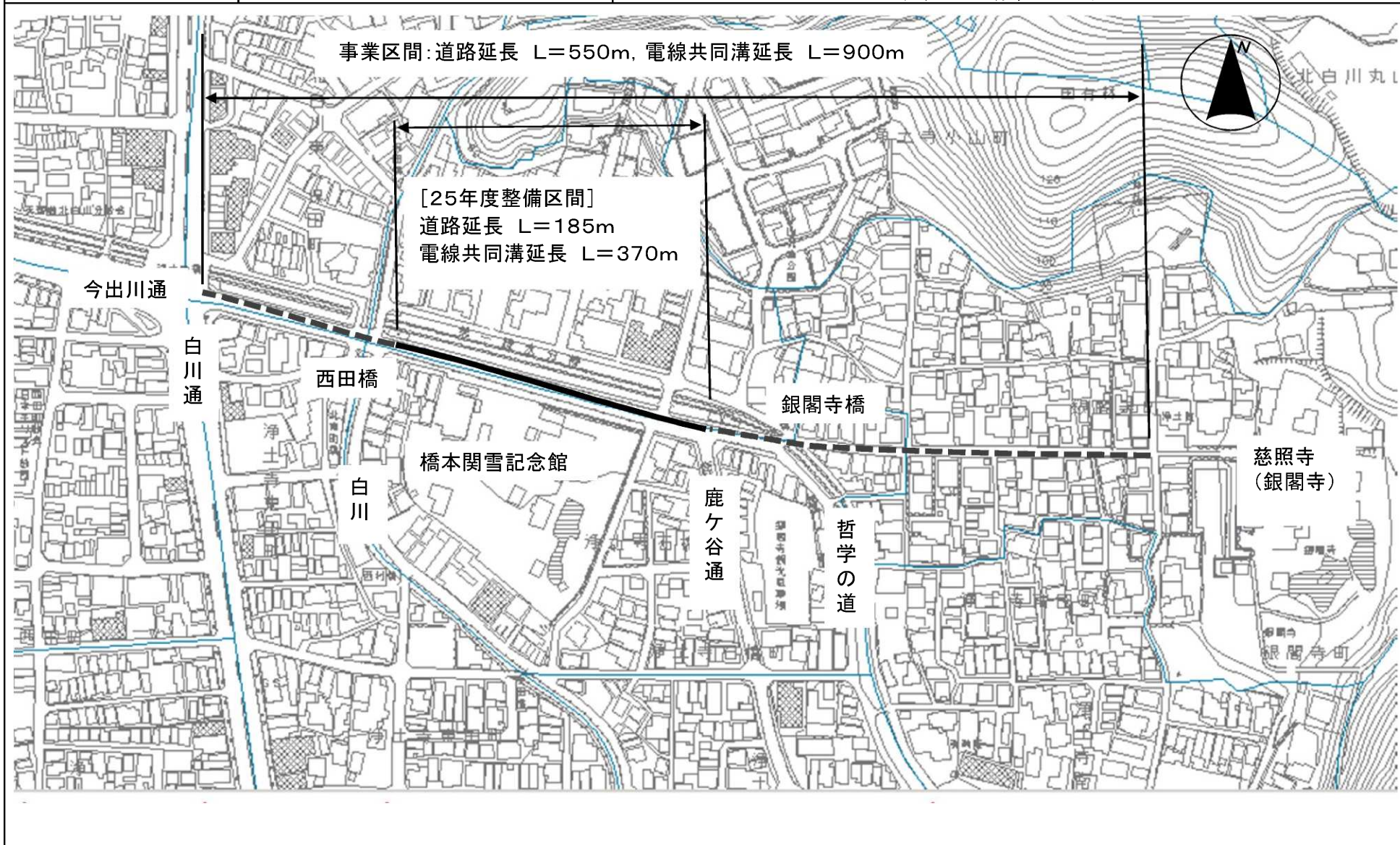
建設局

事務事業名	無電柱化等事業		
予 算 額	204,400千円 銀閣寺道 200,200千円 その他 4,200千円	新規・継続の別	継 続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠局配分枠等
担 当 課	道路環境整備課(222-3570)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 京都市では、京都らしい景観の保全・再生，安全で快適な歩行空間の確保，災害時の避難・輸送経路の確保，情報通信ネットワークの信頼性の向上などを目的として，伝統的な町並みを有する地域や災害時の輸送経路となる幹線道路を中心に，電線類の地中化を推進している。平成24年度は，河原町通（三条通～御池通）の工事を完了し，松原通（市道 松原通）や愛宕街道（府道 京都日吉美山線）などの整備を推進した。</p> <p>【事業概要】 ◎平成25年度は，銀閣寺道（府道 銀閣寺宇多野線）の整備を行う。 本路線は，本市市街地を東西に横断する主要な幹線道路である今出川通の白川通交差点から世界文化遺産の慈照寺（銀閣寺）を結ぶ道路で，周辺には多くの観光施設を有し，季節を問わず多くの観光客，市民が散策する道路である。また，沿道からは大文字山の送り火を望むことができ，眺望景観上も重要な路線である。 ＜平成25年度の整備＞ ○ 事業区間：銀閣寺前町（鹿ヶ谷通）～浄土寺石橋町（西田橋東詰） ○ 道路延長：L=185m（全体 L=550m） ○ 電線共同溝延長：L=370m（全体 L=900m） ○ 整備内容：電線共同溝本体工事</p>			
【参 考（他都市の状況・事業効果など）】			

路線名

銀閣寺道（府道 銀閣寺宇多野線）

箇所図



平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	花と緑あふれるまちづくり～緑視環境向上プロジェクト～		
予算額	435,600千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠局配分枠等
担当課	緑政課(222-3589)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>平成22年3月に策定した「京都市緑の基本計画」を推進するため、「緑視環境の向上」を重点テーマに、次の事業に取り組む。</p> <p>【事業概要】</p> <p>○街路樹整備事業～花の道づくり～(平成25年度予算額 200,000千円)</p> <p>観光地周辺や公園緑地等につながる沿道において、花木により緑のネットワークを形成し、花木による名所づくりを行う。まちなかに潤いを与え、花と緑豊かなまちづくりを推進するため、<u>街路樹のない歩道への花木の植栽や、老朽化等が進行している街路樹を花木へ植替える。</u></p> <p><u>平成25年度は、竹田街道(中書島付近)、柳長公園前通(下鳥羽小学校付近)など7箇所、高木約480本、低木約21,200株の植栽等を行う。</u></p> <p>○街路樹整備事業～道路の森づくり～(平成25年度予算額 167,000千円)</p> <p>都市緑化の推進を図り、街路樹に被われた「道路の森づくり」を目指し、<u>低木植栽のみとなっている既存道路の中央分離帯に新たに高木を植栽する。</u></p> <p><u>平成25年度は、久世橋通(国道171号線～国道24号線)、葛野大路通(御池通～四条通)、御池通(西大路通～御前通)で、ケヤキほか約220本の植栽を行う。</u></p> <p>○ケヤキ並木保全・創造プロジェクト(平成25年度予算額 22,000千円)</p> <p>ケヤキの老朽化及び大径化が進む中、<u>主要路線のケヤキ樹勢診断調査を行い、老朽化したケヤキの植替えや新規の植栽などを行い、ケヤキ並木の保全・創造を目指す。</u>(現況約3,500本)</p> <p><u>平成25年度は、白川通、堀川通、葛野大路通、新林本通及び御池通シンボルロードにおいて樹勢診断調査を行う。</u></p> <p>○桜景観創造プロジェクト(平成25年度予算額 16,600千円)</p> <p>平成22年度に実施した桜並木の樹勢診断調査の結果を基に、<u>樹勢が衰えているサクラ(ソメイヨシノ等)の更新を行う。</u></p> <p><u>平成25年度は、第二疏水分線、木屋町通、白川北通及び白川南通で約50本の更新を行う。</u></p>			

○市民公募型緑化推進事業（平成25年度予算額 30,000千円）

公募した市民意見を基に、公共の敷地や建築物における緑化を実施する。

平成25年度は、改めて市民意見を公募し、緑化すべき場所を検討する。

[参 考（他都市の状況・事業効果など）]

平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	宝が池公園新景観創造事業		
予算額	3,000千円	新規・継続 の別	新規
		政策的新規充実予算枠・ 局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	緑政課(222-3589)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 京都を代表する景観に「春の桜」, 「秋の紅葉」がある。春の訪れとともに広がる桜の美しい景観は, 国内外の人々に優雅な印象を与え, 京都の大切な観光要素となっている。</p> <p>本事業では, 国立京都国際会館が隣接し, 国内外の賓客や観光客にも知名度が高い宝が池公園において, 新たにサクラを植樹できるエリアの整備を行う。本公園が「次世代に引き継ぐ新しい桜の名所」となるよう, サクラによる新景観を創造する。</p>			
<p>【事業概要】 宝が池公園において, まとまった本数のサクラを植樹できるエリアの整備を行う。 <u>平成25年度は, 宝が池周辺において測量・地質調査等を実施し, 植樹場所を検討する。</u></p>			
<p>【参 考 (他都市の状況・事業効果など)】</p>			

宝が池公園箇所図



平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	梅小路公園の拡張再整備		
予算額	350,000千円	新規・継続 の別	継続
		政策的新規充実予算枠・ 局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	緑政課(222-3589)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 平成24年3月に「京都水族館」が開業し、12月にはJR西日本から「(仮称)京都鉄道博物館建設計画」が発表された。梅小路公園では賑わいを増しており、利用者の憩いの場の創出を目的とした公園の拡張再整備を行い、総合公園としての更なる魅力を高める。</p> <p>[事業概要] 平成25年度は、梅小路公園を拡張し、芝生や緑あふれる広々とした交流ゾーンとして、チンチン電車や市電を活用し、新たな賑わいゾーンとして公園の再整備を行う。</p> <p>①「市電ひろば(仮称)」の整備 京都水族館の西側に「市電ひろば(仮称)」を整備し、市電を展示・活用する。</p> <p>②チンチン電車の動態保存(改良・移設) 現在、鉄道博物館建設予定地で走行しているチンチン電車を移設する。また、最新鋭の蓄電池を動力源とする車両に改良し、緑化した軌道上を走行させる。</p> <p>③「すぎくゆめ広場(仮称)」の整備 JR社宅跡地の西半分には、芝生広場や市内最大規模の遊具の新設を中心とした「すぎくゆめ広場(仮称)」を整備する。また、チンチン電車整備場と合わせて、休憩施設(カフェ)を設置する。</p> <p><スケジュール(予定)> 平成25年 4月 市電の展示・活用、カフェ運営事業者の募集 6月 拡張公園整備着工 10月 チンチン電車運行休止 11月 拡張公園部分開園(大型遊具供用開始) 平成26年 1月 拡張公園全面開園(チンチン電車新規運行、カフェ等開業)</p>			

梅小路公園施設配置図

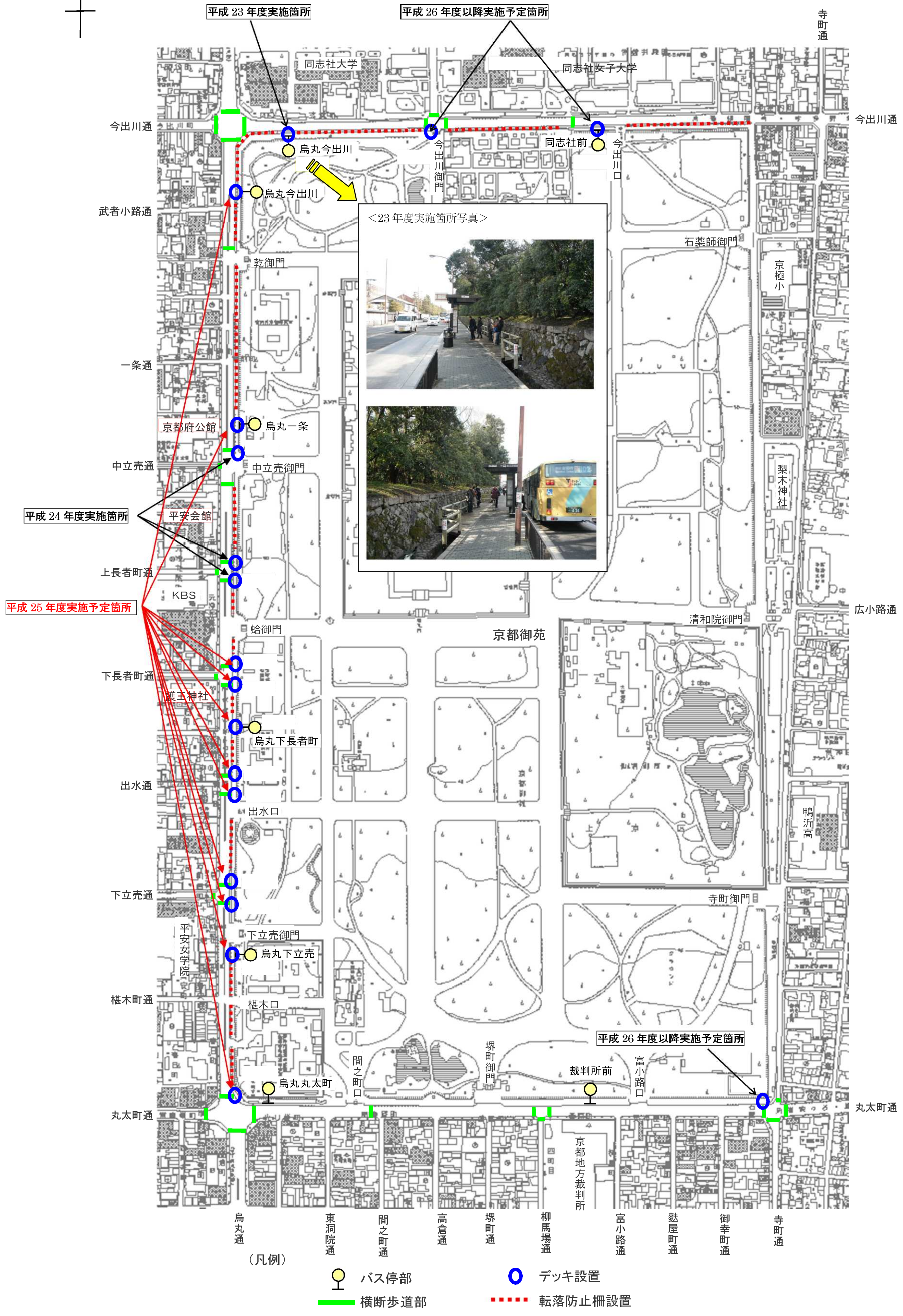


平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	京都御苑周辺道路の歩行空間改善事業		
予算額	21,000千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	調整管理課(222-3568)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 今出川通, 烏丸通, 丸太町通の京都御苑側の歩道については, 歩行者と自転車との接触事故や御苑側水路への転落事故の危険性が高く, 特に烏丸通では, 信号待ちの人と通行する人が輻輳している状況であり, これまでから改善が求められてきた。</p> <p>[事業概要] 京都御苑周辺の歩道において, 間伐材を活用した転落防止柵の設置やバス停, 横断歩道部におけるデッキ及び立入防止柵の設置を行う。 平成23年度は, 烏丸今出川西行バス停付近において, また, 平成24年度には, 烏丸通の横断歩道部3箇所において, デッキ等の設置工事を実施した。 <u>平成25年度は, 烏丸通のバス停や横断歩道部11箇所において, デッキ等の設置を行う。</u></p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p>			

京都御苑周辺箇所図



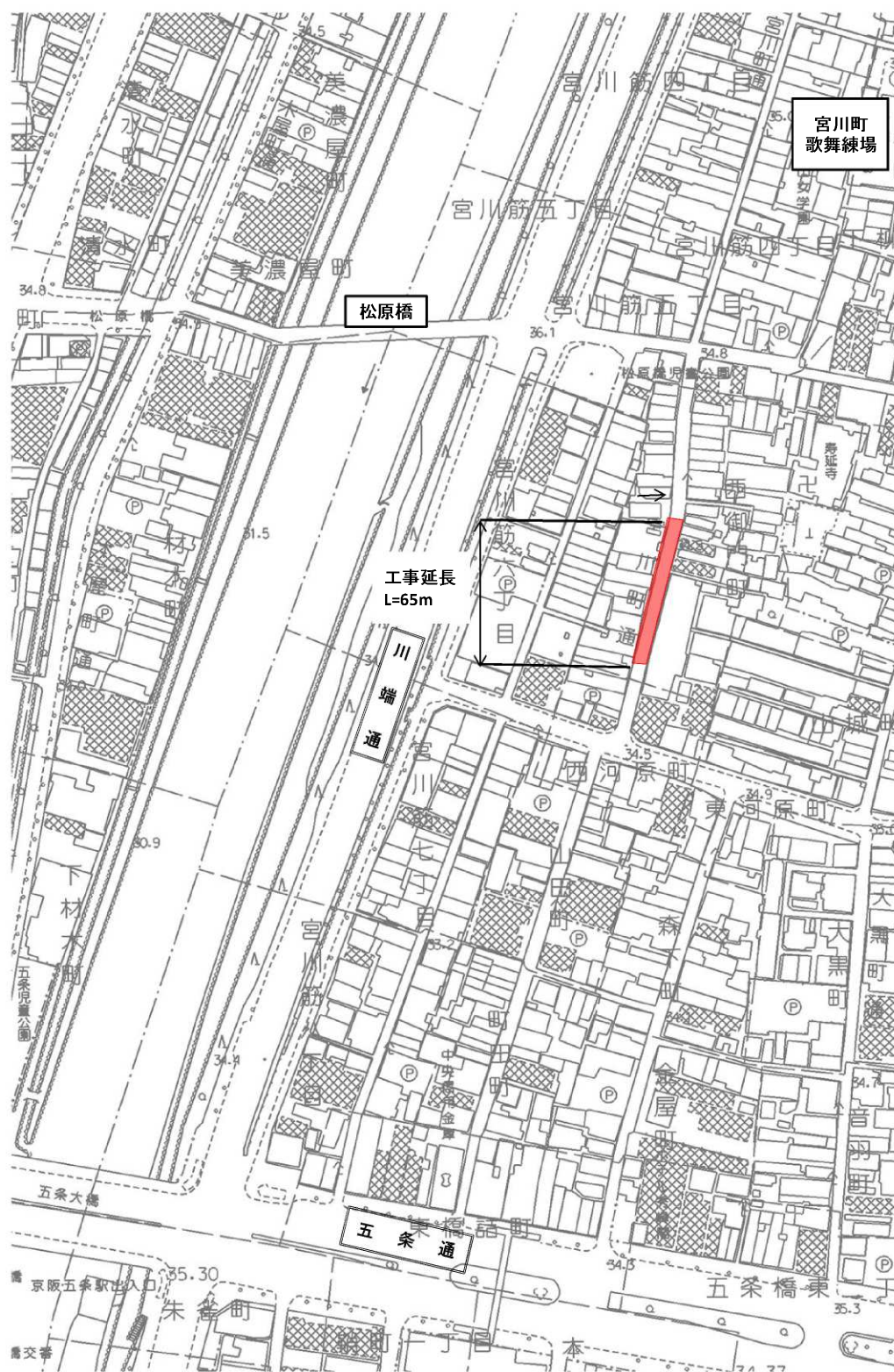
平成25年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	石畳舗装維持補修		
予算額	54,000千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠等
担当課	調整管理課(222-3568)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 近年、風情を感じさせる趣のある石畳舗装が、通行車両等の影響から著しく損傷し、点在する補修（応急）跡が著しく景観を損ねている。 このため、耐久性の高い工法により修繕し、観光都市・京都らしい景観を回復し、観光客を含む歩行者等にとって快適な歩行空間を確保する。</p> <p>[事業概要] 多くの観光客が訪れ、特に景観への配慮が必要である地区及びその周辺にある石畳舗装の補修を実施する。 <u>平成25年度は、六原経16号線、辰巳通の補修を行う。</u></p>			
[参考（他都市の状況・事業効果など）]			

路線名

一般市道 六原経16号線



路線名

一般市道 辰巳通

